

健康の ススめ

今回のドクター

医学博士
古嶋 博司



テーマ

今、話題の肺炎予防とは どういうものでしょうか？

この頃、肺炎予防を促すコマーシャルをよく目にします。今、なぜ肺炎が話題なのでしょう？

肺炎はいまだに侮れない病気であり、最新の統計では日本人の死亡原因で、がん、心臓病に次いで第3位です。

戦前では、肺炎を克服することは国を挙げての重要事項でした。そして、その頃から肺炎の原因となる細菌は「肺炎球菌」が最も多いことも分かっていました。1910年にはその肺炎球菌に対するワクチンが開発され、肺炎予防に貢献していました。その後、抗生物質による肺炎治療が進むにつれてワクチンの開発は下火になりましたが、最近になり抗生物質が効かない肺炎球菌も見られるようになり、再びワクチンの重要性が注目されるようになりました。

肺炎球菌による肺炎にかかりやすい年齢は4歳未満の小児と65歳以上(特に85歳以上)の高齢者です。小児へのワクチンの効果が明らかなことから、国は65歳以上の高齢者に対する接種にも踏み切り、2014～2018年度での助成も始まっています(対象年齢は決まりがあるので要注意)。注射の際の副反応もあまり高くないことも分かっていますが、心臓病などの病気を抱えている人は、ワクチン接種をかかりつけ医と相談した方が良いでしょう。

肺炎球菌は抵抗力の弱った人に悪さをします。子どもや高齢者が標的になるのはそのためです。また、インフルエンザに感染した後も肺炎球菌が襲ってくることがあります。ずっと昔から人類は肺炎などの感染症と壮絶な戦いをしてきましたが、肺炎球菌ワクチンはその一助となるかもしれませ

内科・循環器内科
ふるしまクリニック



診療科目／内科・循環器内科
診療時間／月・火・木・金曜日 9:00～12:30、15:00～18:00
水・土曜日 9:00～12:30
休診日／日曜、祝日
所在地／中央区姥ヶ山5-6-20
電話／025-257-7070

[ふるしまクリニック](#) [検索](#)